

福島県 南相馬市

素材研究
(国内)



数百の騎馬が二本の御神旗を奪い合う神旗争奪戦



明治・大正・昭和の変遷を伝える歴史的建造物を再生させた野馬追通り銘醸館



相馬野馬追の雰囲気を感じさせる長屋風の建物で市民と来訪者の交流の場となっている道の駅「南相馬」



「セテッテかしま」は南相馬市をはじめ相双地方の物産・観光・伝統文化など多様な地域情報を発信しています

相馬野馬追の「総大将出陣」。総大将は藩主の子孫が勤め、赤い母衣と三本扇を装着します

白鉢巻・野袴・陣羽織姿の騎馬武者達が、大坪流の手綱さばきで行う甲冑競馬は、迫力満点です

21世紀の今に甦る豪華絢爛な戦国絵巻 平将門が起源で千年の歴史持つ相馬野馬追

福島県南相馬市では7月25日から27日までの3日間にわたり、千年を超える歴史を誇る伝統の祭り「相馬野馬追」が開催されます。甲冑に身を固めた500余の騎馬武者が腰に太刀、背に旗指物をつけて疾走する勇壮な光景は、豪華絢爛な戦国絵巻を21世紀の今に甦らせるものです。

多くの観客を集める地域イベント

現在の南相馬市は2006年1月、旧原町市、旧小高町、旧鹿島町の1市2町が合併して誕生しました。

同市小高地区は、平将門を祖とする相馬氏が中世に本拠としていた地域で、奥州藤原氏を討討する奥州合戦で功があったことから、行方郡の地頭となった後、小高城へ居を移して周辺地域に勢力を伸ばし、隣接する伊達氏と拮抗するまでになったといわれています。

相馬野馬追は、平将門が野馬を放ち軍事訓練を行ったのが始まりと言われ、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。この地域全体を象徴するイベントとして、多くの観客を集めてきていました。

相馬野馬追執行委員会によると、2010年には3日間の観客数が21万4900人に達していましたが、東日本大震災が発生した11年には

3万7400人に激減。その後は、12年が15万9700人、13年が16万6500人、14年が19万5600人と順調に増加し、震災前の水準に迫ってきています。

相馬野馬追を軸に観光施策展開も

相馬野馬追はもとも、毎年7月23日から25日までの3日間に行われていましたが、2011年から保存伝承のため出場者が参加しやすい月末の週末を組み合わせた3日間に変更されました。また、今年4月には南相馬市が常磐自動車道の南相馬鹿島サービスエリアに隣接して整備を進めてきたサービスエリア活用拠点施設「セテッテかしま」がオープン。観光情報を紹介するコーナーも設置され、年間を通じた相馬野馬追のアピールがさらに強化されました。

同市では近年、観光ボランティアガイドによる史跡などの案内、長期滞在や移住を視野に入れた農家民宿での「田舎暮らし」体験もスタートしており、相馬野馬追を軸とする観光施策の展開も本格化してきています。

さらに、南相馬市は今年3月、福島県内の自治体としては初めて「脱原発都市宣言」を行い、東日本大震災に伴う原発事故の克服と、原子エネルギーに依存しないまちづくりを推進していくことを内外に表明。同市が目指す「脱原発のまちづくり」も、防災減災ツーリズムや産業観光などの形で実を結んでいくことが期待されるところです。